村のかじやさん

小川未明

青空文庫

村のかじやさんは、はたらき者で、いつも夜おそくまで、テンカン、テンカンと、かなづちをならしていました。

ある夜、きつねが、あちらの森で、コンコンとなきました。

かじやさんは、「お正月の休みに、きつねをとってやろう。」と、思いました。

かじやさんは、自分の手で、ばねじかけのおとしを作りました。

はたらき者のかじやさんも、お正月には仕事を休みました。

雪がちらちら降っています。かじやさんは、うらのはたけへおとしをかけました。

晩になると、きつねが、あぶらげのにおいをかぎつけてやってきました。

「お母さん、こんなところに、どうしておいしいものが、おちているのでしょう。」と、子ぎつねがふしぎがりました。

「まあ、あぶないことだ。これは、おとしというものです。さあ、早く、こちらへおいで。」と、母ぎつねは、子ぎつねをつれてゆきました。

「お母さん、だれが、あんなことをしたの?」と、子ぎつねがききました。

「だれがするものか、あのかじやさんだよ。」

「はたらき者だけれど、わるい人ね。」

「なに、私たちをそんなばかだと思っているのでしょう。」と、母ぎつねが笑いました。

かじやさんは町へご年始にいきました。お酒をたくさんいただきまして、いい気持ちで村へかえってきました。途中で日がくれてしまいました。けれど、かじやさんは「あ、こりゃ、こりゃ。」と、うたをうたいながら、上きげんでありました。このとき、赤いちょうちんをつけて、二人の子供がきかかりました。

「おじさん、お酒によって、よく歩けないのでしょう。お家へつれていってあげましょう。」と、二人は手をひいてくれました。

「おお、勇坊と、みっちゃんか、あしたあそびにきな。みかんをやるから。」

かじやさんは、いいきげんでした。

「おじさん、もう、ここはお家よ。おすわりなさい。」

かじやさんは、いい気持ちで、ぐうぐう、ねてしまいました。鳥がないて目をさますと、かじやさんは、お寺のかねつきどうにすわっておりました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　11」講談社
　1977（昭和52）年9月10日第1刷発行
　1983（昭和58）年1月19日第5刷発行
底本の親本：「小学文学童話」竹村書房
　1937（昭和12）年5月
初出：「セウガク二年生　12巻13号」
　1937（昭和12）年1月
※表題は底本では、「村《むら》のかじやさん」となっています。
※初出時の表題は「村のかぢやさん」です。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：酒井裕二
2016年6月10日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

村のかじやさん

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/